

事務局だより

2022年10月1日現在 千葉県介護福祉士会 会員数 669名

賛助団体 8団体 (敬称省略)

- ・社会福祉法人 生活クラブ 生活クラブ風の村 特養ホーム八街
- ・社会福祉法人 翠耀会 特別養護老人ホーム グリーンヒル
- ・東洋羽毛 北関東販売 株式会社
- ・社会福祉法人 九十九里ホーム 障害者支援施設 聖マーガレットホーム
- ・社会福祉法人 広寿会 特別養護老人ホーム いすみ苑
- ・株式会社 ジェイシー教育研究所
- ・社会福祉法人 オリーブの樹 オリーブハウス
- ・医療法人社団 一心会 初富保健病院 初富保健病院介護医療院

承諾を得て団体名を掲載させて頂きました。

いつも本会運営についてご理解、ご協力を頂きまして、心より感謝申し上げます。

会員の皆さん、今年の「介護の日」は日本介護福祉士会前会長の石本淳也氏の講演があります。介護福祉職のカッコよさをふんだんに語り頂き「プロの介護とは...」を皆さんと共有したいと思います。

普段仕事にモヤモヤしている方の背中を押してくれること

間違いなしです！ 仲間と一緒に参加してみませんか。

久しぶりの参集研修になる予定ですので、気分転換にも是非ご参加

ください。お待ちしております。 (事務局長 高橋)



一般社団法人 千葉県介護福祉士会

〒260-0026

千葉県千葉市中央区千葉港4-3 千葉県社会福祉センター3階

TEL: 043-248-1451 FAX: 043-248-1515

事務所の電話受付は平日の9時から16時となっております。時間外及び土・日・祝に開催される研修会等のお問い合わせについては、留守番電話にて対応しております。

E-mail: kai5niji@poem.ocn.ne.jp

知りたい情報等ありましたら、上記メールアドレスにお知らせください。

千葉県介護福祉士会 ホームページ

<https://care-net.biz/12/kai5chiba/>

千葉県介護福祉士会 facebook

<https://www.facebook.com/千葉県介護福祉士会/1866986893408630/>

編集: 広報委員会・広報委員長

niji

千葉県介護福祉士会 会報 にじ

Vol.123

2022年10月27日発行



yell!

みなさんこんにちは。

突然ですが、国家資格である介護福祉士が創設されたのはいつの頃かご存知でしょうか？ 答えは、昭和62年(1987年)5月です。名称独占の国家資格として創設されました。長寿社会に向けてマンパワーの資質向上などを目的とし、介護福祉士はその中核的な役割を担うものとして位置づけられました。それから35年、高齢化率は令和3年度に28.9%と4人に1人以上が65歳以上となり、今後さらに高齢化が進展することが予測されています。そのような中、厚生労働省は、2025年には介護人材は約216万人の需要があると、年間6万人程度介護人材の増加の必要性を発表しております。令和4年8月現在、介護福祉士の登録者数は約187万人です。今後ますます介護福祉士の活躍が期待されています。期待されているのは、その数だけではありません。介護の「質」も求められています。資格創設当初の「身体ケア」を中心とした介護のあり方から、認知症の方への対応や、支援を必要とする誰もが住み慣れた地域でその人らしく暮らせるための幅広いニーズに対応した尊厳を支える介護サービスの必要性が高まりました。「量」も「質」も求められている介護福祉士。日本介護福祉士会倫理綱領の「後進の育成」の実践として、介護福祉士の資格取得を目指す方々の合格の後押しをするべく、受験対策委員は活動を続けております。

当会の受験対策の活動が始まったのは、設立から間もない1995年。いまから30年近くも前になります。その頃から国家試験の合格を目指して勉強を頑張っている受験者に向けた受験対策として、夏頃に一日講座、そして秋から冬にかけて筆記模擬試験と実技試験対策講座を開催してきました。近年の当会の筆記模試は、延べ人数で令和2年度が101名、令和3年度も101名と、多くの方々に受験頂いています。今後も多くの受験者に活用して頂き、合格の後押しを続けていく所存です。

宣伝にはなりますが、この記事をお読み頂いた方には、ぜひ同封の模擬試験のご案内をご覧いただき、お近くの受験者にお勧め頂けましたら幸いです。毎年、千葉県社会福祉センターを会場として、実施しております。本番前に会場模試で腕試しができることは、受験者にとって大変有益な体験となります。また、模試終了後には解説ミニ講座(約1時間)を開催しております。たくさんの方々のチャレンジを心よりお待ちしております。

最後に、介護福祉士の資格取得を目指す受験者の皆様へ。今日まで順調に学習が進んでいる方も、これから本気モードのエンジンをかける方も、様々な方がいるでしょう。もしも、まだ勉強方法に自信を持っていない方は、当会おすすめの学習方法をお試ください。それは、当会連携事業の「赤マル方式」です。過去問を何度も解くことで試験に生きる知識の習得を目指します。10年の実績がある「赤マル福祉」は、7年分の過去問題(詳しい解説付き)にチャレンジでき、利用者から「スマホを使ってスキマ時間に勉強できて良かった!」と評判のサイトです。データ管理が秀逸で、問題のキーワード検索ができる、実施状況や正答がわかりやすく表示される、自分の過去の正答率が分かる、一問一答のO×問題が解け、その他オリジナルの模擬問題にも挑戦できます。ぜひサイトを訪れてみてください。当会と連携事業の「赤マル福祉」で楽しく勉強して、合格を勝ち取りましょう!そして合格した暁には、介護福祉士として介護の明るい未来を一緒に創っていきましょう!

(受験対策委員一同)

認知症ケアのアセスメント視点

～自然観察から学ぶ ご利用者理解で大切にすべきこと～

に参加して

令和4年10月6日（木）昭和の森公園にて小雨が降中、介護分野としては珍しく屋外にて体験型の研修会を開催致しました。講師には自然観察指導員の資格を持ち千葉県認知症介護指導者でもある椎名淳一会員・松原弘晃会員にご担当頂きました。

自然観察と認知症ケアがどのように結びつくの？と思われる方も多いかと思いますが、それ以上に受講生の方々はたくさんのお話を聞いて頂けたようです。



お二人の講師が持つ自然観察指導員とは、日本自然保護協会が主催する研修会に参加する事で取得できる資格であり、「自然観察からはじまる自然保護」を合言葉に、地域に根ざした自然観察会を開き、自然を守るための仲間をつくるボランティアリーダーです。全国各地で自然観察会が行われており、四季折々の自然の変化をゆっくり、じっくり観察し、自然の雄大さや不思議、賢さを感じ、自然保護につなげるという取り組みを行っています。では、この自然観察と認知症ケアがどのように関係し合うのか。

例えば、自然観察をしていると蜘蛛の巣を見つけることがあります。私も体験以前は「歩く時に糸にひっかかったらやだな」と考えながら通り過ぎていましたが、自然観察会ではその蜘蛛の巣をじっくりと観察します。すると「なぜこの形をしているのだろう」「なぜこんな高いところに巣をはるのだろう」と感心を持つ事が出来るようになります。その現象に関心を持ち、接するという視点が、認知症ケアにおいても重要であると思われる。このような視点をもってご利用者の支援を行うと例えば、ご利用者の理解に苦しむような言動であっても、「なぜそのような行動をとるのだろう」という視点を意識できるようになる可能性があります。また自然を題材としたワークの中で、共感する事や多様性を感じる事の重要性を実感出来ると思われまます。このようにご利用者をより良く理解する上での「視点を増やす」事や「センスを磨く」という効果を期待して本研修会を企画致しました。

研修会の中では、まず屋根のある場所で、認知症のアセスメント視点に関する講義を行った後、講師の誘導により自然観察をスタートしました。私たちの願いが通じたのか自然観察を行う時には雨が止んでくれました。最初のワークは公園の全体を見渡せる場所で風景をスケッチするというものでした。スケッチしたものを小グループになり見せ合うと、同じ方向を向いてスケッチしているのに書いている場所はバラバラで、ピンポイントに絞って書く人から風景全体を書く人まで様々でした。受講生の方々は絵のうまさよりも、その多様性に驚いている様子でした。その後も散策を続け、次のワークでは、携帯電話をそれぞれ取り出し、自身が「顔」と思う描写を自然の中から探すというものでした。受講生の皆さんは思い思いに「顔」と思うものを撮影し、その後グループで共有しました。一見するとわからない写真でも説明を受ける事で次第に顔に見えてくるという不思議な体験でした。見ている場所を移動していくと森の中から徐々に横顔が浮き出てくるような写真を撮った方の案内で移動していくと本当に横顔に見える場所があり、歓声があがるような場面もみられました。

それ以外にも、散策の道中も会話が弾み、受講生間の交流がとてもスムーズに図れていた事や、積極的に相手を理解しようとする姿勢など、認知症ケアのみならず、チームマネジメントやコミュニケーション技術など介護福祉職が取り入れるべき様々な要素が盛り込まれている研修会となったように感じます。

2時間半の研修でしたがあっという間に時間が過ぎてしまう感覚で、受講生のみなさんからも「様々な角度からの視点、気づき、大切さを改めて感じた」「次回も是非開催してほしい」など嬉しい感想を聞く事が出来、企画者としては感無量でした。

みなさまのご期待に応え、第2回を企画したいと考えております。前回参加された方も、これを見て興味をもって頂いた方も次回のご参加お待ちしております。これからも当会は色々な角度から、専門性を磨きつつも楽しい研修会や企画を進めていきますので、ご期待ください。

(北総ブロック長 加藤幸夫)

研修参加者の声

自然を様々な角度から意識して見つめる事は、介護の現場においても相手をありのままに受け入れる事に通じる、と感じました。

「～であるべき」などと勝手に決めつけていた事を見直し、「なぜ」と言う視点で見つめたり、多くの”気づき”の中からグループ(チーム)で話し合いながら、より良いケアにつなげていく事の大切さを改めて感じました。

例えば、自然の中で「顔」を探したとき、自分には見えない、思いつかない所に顔を見つけた人がいました。その時ふと、天井や壁のシミや模様が顔に見えて「誰かいるう～」 「怖い～」 と不穏になったりするのは当たり前だなあ、と。夜の風の音だって、ひとりでしたら不安になるのよねえ、と感じました。

自然の中でリラックスした気持ちを持って、忙しさの中で忘れてしまいがちな感性を取り戻す事ができました。

(広報委員 寺本)



今後の研修・イベント 予定

中央法規出版 介護福祉士模擬試験 2回目	11月12日 (土)	千葉県社会福祉センター
啓発・相談委員会 「介護の日」 KAI GO PRiDE in chiba	11月20日 (日)	オークラ千葉ホテル3階
青年部運営委員会 主体的人材が育つコミュニケーションスキル	11月26日 (土)	オンライン
日本介護福祉士会 全国一斉模擬試験	12月3日 (土)	千葉県社会福祉センター
事業委員会 令和4年度介護職種の技能実習指導員講習	12月10日 (土)	千葉県社会福祉センター
「赤マル福祉」直前模擬試験	2023年 1月7日 (土)	千葉県社会福祉センター